

## 第20回 ユニタク ①

### バリアフリーで注目されるユニタク

今号からはこれまでと少し赴きが変わり、「ユニタク」こと「ユニバーサルデザインタクシー」がテーマになります。ユニタクとは具体的には移動制約者の利用を前提に車椅子対応の設備を有したタクシーのことですが、利用者を患者等に限定して事前予約制で営業する「福祉タクシー」とは異なり、一般の人を対象にしたいいわゆる“ながし”のサービスもあわせて行うことができる点が特徴です。

昨今、関係者のあいだではユニタクが日本のバリアフリー化に大きく貢献するのではないかと期待が高まっています。このコーナーでは、なぜユニタクに多くの人々が期待がよせるのか、ユニタクは透析患者の通院にどのような影響をもたらすのかといった点を中心にみていきたいと思います。

### 誰もが使えるデザインを目指して

まず「ユニバーサルデザイン」という言葉について整理してみましょ

う。ユニバーサルデザインは1980年代、アメリカの工業デザイナーで建築家のロナルド・メイスが提唱した商品開発の考え方です。メイスは自らが身体障害者であったことから、新しい商品を作る際は企画・設計の段階からできるだけ多くの人々が利用できるようにあらかじめそのようなデザインを考

えることが重要とし、これをユニバーサルデザインと定義しました。

ここから、誰もが年齢や性別、身体的ハンディキャップを意識することな

く利用できる製品デザインのことをユニバーサルデザインというようになったのです。後にユニバーサルデザインの考え方は商品デザインのみならず、建築、都市設計に広げられていきました。今日では、すべての人の平等な社会参加の実現を目指すために不可欠な考え方となっています。

### 「バリアフリー」とは発想が違う

ところで、すべての人の平等な社会参加の実現を目指すという点で私たちに馴染み深い言葉に「バリアフリー」という言葉があります。バリアフリーもユニバーサルデザインも目指す方向は同じですが、前者は障害がある人が社会生活をいとむ上で障壁となる

「バリア」を除去するという意味であるのに対し、後者はその「バリア」を当初から作らないようにしようという考え方であるという違いがあります。

また、ある商品がユニバーサルデザインであるためには、それが特定の障害を持つ人にとって使いやすだけでなく、他の障害者や健常者にも、高齢者にも子どもにも、日本人にもアメリカ人にも同じように使いやすいと思えるようなデザインでなければなりません。これは、ある意味バリアフリーよりも達成が難しい課題です。

このように、ユニバーサルデザインはバリアフリーの考え方を踏まえたうえで、その根本的な問題解決を目指す考え方なのです。

次回は…

ユニタク ②